

# 河川美化活動に感動

## ネパール大地震被災児 GW三島が今年も招待

2年前のネパール大地震で被災した児童5人が18日までの3泊4日、三島市内でホームステイして地域交流や自然体験を楽しんだ。

グラウンドワーク三島(GW三島)が昨年

にも続き、心を癒やして

た。同団体と交流のある山梨県大月市の紅富士太鼓が5人を招いた機会に合わせて市内に呼んだ。

した。池に入り、手やほつきを使い、優しく附着した泥や小石を払って生息環境を整え

た。初来日のバビシャブ・ポウデルさん(13)は「地震の時、とても怖かった。家が壊れ、テント暮らしで生活が大変だった」と当時を振り返った。市内については「ネパールの川は汚れている。来日してチームワークできれいにしていくのを見て感動した。母国でも変わると思った」と話した。ネパール被災地での現地支援活動に取り組んだ同団体は今回の訪問について、将来の復興に向けて源兵衛川の水辺再生や町づくりの取り組みがヒントになることを期待している。



ミシマバイカモの手入れに汗を流すネパールの子どもたち＝三島市の三島梅花藻の里

来訪したのは13、14歳の男子2人、女子3人。源兵衛川の生き物観察や茶わんのかげら拾い、富士山エコツア1、地域の夏祭りの参加などを体験した。市内小学校での施設見学や交流、沼津市で海水浴も楽しんだ。

16日は、南本町の三島梅花藻の里でミシマバイカモの手入れと清掃に汗を流